

第 26 回環境安全委員会 議事要旨 (案)

1. 開催日時 平成 25 年 2 月 7 日 (木) 10:00~12:05
2. 開催場所 ホテルイースト東京 3 階 永代の間
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、岩崎委員、木下委員、榎本委員、小嶋委員、堀田委員、竹内委員、山根委員、土屋委員 (順不同)
4. 議事 (公開)

議題 1 東京 PCB 廃棄物処理施設の操業状況 (平成 24 年度下期 1 月末まで) について

資料 1 に基づき JESCO より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- 水熱の腐食状況に関し、事前予測や予防保全は出来ないか。
(JESCO) 混合管に関しては肉厚測定データより、0.35~0.65mm/1000hr と予測しており、現時点で、まだ 3 年程度は問題ないと考えている。再生熱交の出口に関しては、半年前に取替えた溶接箇所でも部分腐食が発見されており、現時点での減肉予測は難しいが、定期的に肉厚測定を行っていく。
- 再生熱交の出口は溶接不良ではないのか。
(JESCO) 溶接後の PT 検査、RT 検査結果は合格している。溶接箇所の近傍であることから、熱の影響や付着物の影響等をメーカーで分析し、原因を究明している。
- 活性炭槽の活性炭が減少したため補充したとのことだが、減少した分はどこに行ったのか、確認すること。
- 排水中ダイオキシンの自主管理目標超過で、低濃度処理排水を分析していない理由。
又、9 月 25 日の分析結果で用役排水が 2.6pg-TEQ/l が 55t/日に対し、液処理排水が 0.00016pg-TEQ/l で 175t/日でありながら、合流後が 2.1pg-TEQ/l と高いのは何故か。
(JESCO) 低濃度処理排水を分析していないのは、これまでもほとんど検出されたことが無いことから必要ないと判断した。用役排水と液処理排水の量と濃度については、排水量のバランスは常に同じではないので、サンプリング時はほとんどが用役排水によるものだったことが考えられる。
- 基準値以下を守るように今後も努力して欲しい。また、全体の排水量を減らす努力もお願いしたい。
- 基準値の 10pg-TEQ/l に対し、協定では半分の 5pg-TEQ/l で管理している。
DXNs は粒子に付いているもの、水に溶けているものがあるが、SS 分で管理することは重要。ただ、夏場は冷却水のブローを増やし SS を下げるとしているが、トータル量は変わらない。
- オンラインモニタ装置に関し、三菱製の ECD 分析によるものと聞いている。
PCB 濃度高高を検出していることから正常に動作しているとは思いますが、このような特殊な装置はメンテナンスが重要になる。

(JESCO) 毎年の定期点検時に校正を行い、維持管理をしている。尚、最初は三菱製だったが、他の事業所で実績のある日立製オンラインモニタに取替えている。

○処理実績で重量を比較しているが、目標達成は台数で管理しているはずで、あまり意味が無いのでは。

(JESCO) 設備的には重量によること、例えば重量が大きいと処理に手間がかかることから、台数だけでなく、重量でも管理をしている。

議題2 東京事業所の処理促進に向けた取組み状況について

資料2に基づき JESCO より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

○水熱負荷を少なくするために、無害化認定施設を活用するが、粉末活性炭の処理は東京で行うとのことか。

(JESCO) その通り。

○水熱分解で何故、これまでは定格の運転が出来なかったのか。

(JESCO) 液酸ポンプの不具合もあり、定格供給量の 500kg/h に対し低い値だった。最近では 480kg/h になっている。

○前処理との兼ね合い、水熱の能力が高くても供給する側の問題もあったと思う。

○何故、有機則第2種の IPA を使用しているのか、3種であれば取扱いが容易だと思うが。

(JESCO) 廃掃法に基づく設置許可申請で許可を得るため、メーカーが実証テストを行い認定されている。他に事業所では NS200 等の溶剤を使用しているところもある。

○実績を処理重量で比較しているが、台数での目標との比較は。

○台数比較と重量比較及び純 PCB 処理量で見ていく必要がある。

(JESCO) 保管者によっては、大きなものと小さいものが一緒になる場合がある。難しいが、それが運転のノウハウになる。

○持込み計画が重要になる。

○コンデンサ処理が伸びないようだが増加対策は。

(JESCO) 無害化処理認定施設の活用による水熱の余裕や無機物の処理に伴う化学洗浄も少なくなるため、水熱の処理量がアップする。

議題3 無害化認定施設の活用について

資料3に基づき JESCO より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

○ドラム缶が 6300 本とのことだが、他の事業所もそうか。

(JESCO) 他の事業所も保管場所に苦勞しており、外部の倉庫を借りたところもある。

○東京の場合は、無害化処理認定施設は何とか間に合い、外部での保管場所

の必要は無くなったとの事かと思うが、施設内での保管は大丈夫か。

(JESCO) 施設内を整備、例えば控室での保管など、工夫しながら保管している。無害化処理認定施設に出すことが出来れば大丈夫だと思う。

議題 4 今後の PCB 廃棄物の処理の推進について

資料 4 に基づき環境省より説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

○保管場所が 9 万カ所あり、最近は大手の工務店が無許可のところに処理を依頼したとの話があるがこれは氷山の一角では。知らないうち近くに捨てられていることも考えられる。環境省は実態を調査し、保管の監督を一層強化して欲しい。

(環境省) しっかり取り組んで行く。

(東京都) 都としても呼びかけや立入り検査等、しっかり管理して行く。

以上